

## 学術フォーラムの概要について(事後報告)

1 名称：日本学術会議主催学術フォーラム【初等・中等教育課程における「ヒトの遺伝学」  
教育の推進と社会における遺伝リテラシーの定着】

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：(後援)医歯薬アカデミー

3 開催日時：平成 25 年 3 月 1 日 (金) 14:30～17:00

4 開催場所：日本学術会議講堂

5 開催趣旨：

我が国では、初等・中等教育課程において、ヒトの遺伝についての教育がほとんど行われていない。そのため、遺伝学や遺伝医療における今日の大きな進歩を正しく受け止め活用していくための社会一般の理解が著しく不足している。人々が遺伝子や遺伝について間違った情報を鵜呑みにすることや、遺伝性疾患やその患者について誤解や偏見を生むことがないように、初等・中等学校課程からの遺伝学教育の必要性が叫ばれるようになって久しいが、未だ実現に至っていない。

社会における遺伝リテラシーの定着のために、また、遺伝医療の正しい発展のために、遺伝学教育の進展は極めて重要である。遺伝学や遺伝性疾患・遺伝医療の専門家などにより、課題の所在を明らかにし、学術会議として何が出来るかを議論する。

6 参加人数：

講演者等：10名

その他の参加者：約 210名

7 特記事項

- ① 事務方からのリピーターや私立小・中・高等学校への広報に加え、日本科学教育学会、NPO 法人遺伝カウンセリング・ジャパン、遺伝カウンセラー協会のホームページへの掲載、大学等へのポスターの配布などが功を奏し、金曜日の昼間という時間帯にもかかわらず、関係者を除く参加者が約 210名となった。東北地方や長崎など、遠隔地からの参加者もあり、テーマへの関心の高さがうかがえた。
- ② パネルディスカッションは、様々な立場の参加者との質疑応答で非常に盛り上がり、残念ながら時間切れとなった。終了後にも、会場に残ってパネラー等とのディスカッションを続ける参加者も多く、今後に向けて、関連テーマでのフォーラムの開催を望む声も多かった。